

平成22年度 事業計画書

学校法人 文理学園

目 次

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1．学園の教育環境整備

- (1) 日 本 文 理 大 学 . . . 3
- (2) 日本文理大学附属高等学校 . . . 3
- (3) 日本文理大学医療専門学校 . . . 3
- (4) NBU大分美容専門学校 . . . 4

【 2 】 設置校の事業計画

1．日 本 文 理 大 学

- (1) 教育活動 . . . 4
- (2) 研究活動 . . . 5
- (3) 広報・学生募集活動 . . . 5
- (4) 就職活動 . . . 6
- (5) その他 . . . 6

2．日本文理大学附属高等学校

- (1) 教育活動 . . . 7
- (2) 広報・生徒募集活動 . . . 8
- (3) 進学・就職進学活動 . . . 8
- (4) その他 . . . 8

3．日本文理大学医療専門学校

- (1) 教育活動 . . . 8
- (2) 学生生活 . . . 10
- (3) 広報・学生募集活動 . . . 10
- (4) 就職活動 . . . 11
- (5) その他 . . . 11

4．NBU大分美容専門学校

- (1) 教育活動 . . . 11
- (2) 学生生活 . . . 11
- (3) 広報活動 . . . 11
- (4) 就職活動・キャリア支援 . . . 12
- (5) その他 . . . 12

平成22年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、昨年度よりスタートした中長期改善施策の2年目として、更なる教育環境の充実を図り、財政基盤を堅固なものにすることを念頭に置き、平成22年度事業計画を作成した。

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

【共通検討事項】

経年劣化による、老朽化機器の整備更新、改修及び建物耐震化対策、電話交換装置、防災上必要不可欠な火災受信機更新を実施する。

地上デジタル放送対応

（ 1 ） 日 本 文 理 大 学

合併浄化槽機器改修

40thカフェFCU（ファン・コイル・ユニット）空調設備

構内1号柱気中開閉器更新

サテライトセンター内レスリング場設置

クロスカントリーコース附近プレハブ倉庫新設

11号館（航空宇宙工学科棟）、15号館（航空宇宙工学科実験棟）のAV機器更新

サッカー場高圧受電設備変更

第2体育館空調設備

守衛室火災受信盤更新

電話交換装置更新

第2発電所跡改修整備（重要文書保管庫設置）

入試広報サービス事務室移転（NBU情報センター2階LC1へ移設）

（ 2 ） 日 本 文 理 大 学 附 属 高 等 学 校

校舎浄化槽公共下水道管接続

校舎機械実習室整備

校舎消火栓ホース更新

校舎正面玄関庇改修

四教館前駐車場路盤整備

ラグビー練習場ナイター照明増設

（ 3 ） 日 本 文 理 大 学 医 療 専 門 学 校

自動火災報知受信機更新

講義棟周辺サイン設置

学生数増加を想定し、講義室や講義机等の施設・設備の整備を図る。

実験実習室内の備品の整理・整頓を励行する。

(4) NBU大分美容専門学校

ヘアドライヤー用コンセント工事

高圧受電設備引き込み開閉器更新

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

(1) 教育活動

学生満足度向上に関する取組み

) 正課外科目「NBU チャレンジプログラム」の展開。職員を中心とした企画・運営で多様なプログラムを展開し、学生の学びのキッカケづくりを行い、学生の学習意欲・人間力を高める活動を推進し、満足度の向上につなげる。

) 人間力育成センターが中心となった学生情報の収集・整理。入学から卒業までの情報を学生別に集約し、退学防止などを含む様々な問題解決のための糸口とする。

) 新入生意識調査を行う。

教育内容の充実に関する取組み

) 経済産業省「平成 21 年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」の成果等を活用し、人間力育成プログラムのさらなる改善・完成を目指し、学生視点に立った目的・目標に沿った教養基礎科目と専門教育科目の各科目間の連携を推進する。

) シラバスに記載された内容を厳密に運用し、学部・学科等の目指す「学習成果」を踏まえて、単位制度の実質化に向けた取組を推進する。

) FD 活動の一層の推進を図る。

) GPA 制度を厳密に運用し、学生に対するきめ細かな履修指導や学習支援を促進する。

) 学生の日本語能力の向上を図るため、なお一層の学習指導体制を構築する。

) 留学生の日本語能力向上を促進するため、必要かつ有効な科目に SA(スチューデントアシスタント)の活用を促進する。

学生支援・学習環境の充実に関する取組み

) 学生の履修指導や就職支援、経済的支援等の総合的な学生支援の在り方を検討する。

) 学科との連携による図書館活用について、講義・ゼミと関連付けられた学習用課題図書
の充実を図る。

) 図書館の学習環境改善について、資料配置等の見直しならびに新たな学修スペースの設置について検討する。

) 基礎学力・キャリア教育の補習、自己学習の補強を目的とした e-learning システムの本格稼働を図る。

(2) 研究活動

マイクロ流体技術研究所における「昆虫型飛翔ロボット」の 5 年間の研究成果の集大成である「研究成果報告書」を作成し、文部科学省をはじめ関係大学・研究機関等へ配布するとともに、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」や「平成 22 年度科学研究費補助金」などによる外部資金を活用した研究活動を積極的に推進する。

情報の収集・発信について

-) 既存の外国学術雑誌の専門領域をカバーする学術情報データベースの導入を検討し、学術情報収集機能の充実を図る。
-) 学内で生成、デジタル化された学術情報を「機関リポジトリ」を用い情報発信するため、デジタル著作物公開に関連した著作権整備等を進め、学術情報の発信機能の充実を図る。

(3) 広報・学生募集活動

学生募集・広報活動に関する取組み

-) エンロールメント・マネジメントの観点から部署間の連携を強化する。「入口」と「出口」という最重要課題の解決と担当スタッフの資質向上を目的とし、「入試広報サービス」と「進路開発センター」を共同フロア（NBU 情報センター2 階 LC1 教室を改修）に移転設置することで、「学生募集力」を向上させる。
-) 学生募集及び広報活動の基本方針について、テレビ CM を中心とした「空中戦」から在学生や保護者などの満足度を上げ、それが口コミ等で広がっていく「地上戦」へと変更する。各ステークホルダーに対して、チラシ、DM、Web などをフル活用して、タイムリーかつ効果的に情報提供を行う。また、学内向けの広報活動の充実も図る。
-) 卒業生を活用した学生募集活動の再強化を図る。
-) 強化クラブに関する募集強化及び課題解決のための体制づくりを図る。
-) ホームページでの動画サイトの立ち上げ、口コミ、学内広報など広報面の充実を図る。
-) リスクマネジメントの観点からの広報マニュアルの作成を推進する。
-) 外部団体との連携による NBU の新しい魅力の構築を図る。（NPO 法人 ものづくり生命文明機構などとの講演及びシンポジウム等の共催）

入学試験に関する取組み

-) 多様な受験生に対応するため、様々なレベルの入試を実施する。同時に、すべての入試区分で各受験生に合った負荷を与え、「成長させる入試」を目指すことで、「数の確保」と「質の保証」を両立させる。
-) 「学費免除総額」は、総収入に対して免除総額の上限を設定。学費免除制度を有効活用した上で定員の確保を目指す。
-) 国公立大学受験生層を獲得するために、入試問題作成などのコスト・リスクがかからない工夫をした上で「一般入試」のバリエーションを増やす。
-) 学科別のアドミッションポリシーの明確化を順次検討する。
-) 入試における面接試験・学力試験などを各学科での教育内容により一層リンクさせるための検討の場を持つ。

-) 感染症など、突発的事項が発生した場合の対処体制の構築を図る。
-) 入学前課題をさらに充実させ、入学予定者の不安を解消させると同時に、学力・意欲の維持を図る。

留学生の募集・広報活動に関する取組み

-) 中国国内の大学との関係を構築・強化し、主に工学部編入学生の獲得に向けて、学生募集活動を行う。
-) 政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金が廃止となるため、他の大学との差別化を図り、学生募集につながるよう大学独自の授業料減免制度の確立に努める。

社会・地域貢献に関する取組み

-) 文部科学省の委託事業である「建設技術者のための ICT 活用セミナー」は平成 21 年度で終了したが、平成 22 年度は規模を縮小し実施することを検討する。内容については、建設業協会と協議を行う。
-) 学友会による「防犯パトロール」を実施し、地域に密着したボランティア活動を推進する。
-) 各種公開講座の開催を図る。

(4) 就職活動

教員に対して就職支援意識の更なる向上を図るため、就職委員を通じてフォローを徹底する。

『平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム』にて採択された「就職ポートフォリオを活用した就職力育成プログラム」を継続推進する。

具体的には、キャリアカウンセラーによる就学支援や面接試験対策など就職活動支援を強化して、非就職活動者の減少を図り、学生指導の他に SPI 対策講座・公務員試験対策講座・就職試験ガイダンス・学内合同企業セミナーなど開催して就職希望者に対する内定率 100%を目指す。

ハローワーク・大分県庁・同窓会（一木会）・後援会との連携を強化し、九州地区を中心に企業開拓を推進する。

3 年生以下の在籍生を対象に社会見学会を実施し、早期に仕事の現場を実際に見学することで企業研究や就職活動への意識づけを図る。

留学生に対しては、日本語能力試験 N1 及び N2 合格者とその資格取得意思のある学生を対象として別個に就職ガイダンスを実施し、日本国内で就職を希望する学生へ求人情報の提供や履歴書添削指導・面接指導などを充実させる。

(5) その他

学生生活指導に関する取組み

-) 死亡事故ゼロ、交通ルールの徹底、薬物対策、感染症対策、生活マナーでのモラル向上を徹底させ、学生生活の健全化を図る。

図書館システムに関する取組みとして、「新たな学習支援サービスの提供」について、具体的に検討を行う。

学内のシステム運用、PC 環境及びネットワーク環境等に関する取組み

-) GAKUEN、UNIVERSAL PASSPORT (略称：ユニバ) の安定的運用を継続するとともに、GAKUEN・ユニバ運営会議を通じ、利用部門によるシステム機能の活用を推進する。
-) PC 教室の OS 切換えを検討し、切替えに伴う各課題について随時検討を進める。
-) 近い将来における重要課題 (学内ネットワーク環境の見直し IPv6 化 やプライベートアドレス導入など) を整理し、次世代の大学ネットワークの基本構想作成を検討する。また、基幹ネットワークの機器集約により、運営費用の削減を図る。
-) 昨年度獲得した「私立大学等経常費補助金特別補助対象事業 (ICT活用教育研究支援)」をはじめとした各種補助金の申請を行う。

2 . 日本文理大学附属高等学校

県南における私学の雄として、地域中学生の減少という逆風に負けず入学定員の確保を目指す。「すべての責任は教職員にある。」「常に生徒のために」という考えを根底とし、学習・生活・部活動等の指導を行う。

(1) 教育活動

基本的生活習慣の確立への取組み

-) 「見逃さない、見放さない、甘やかさない」を合言葉に、法律や校則の厳守・身だしなみへの気配りを正しく粘り強く指導する。
-) 時間の厳守を徹底させ、遅刻者を更に減らす努力をする。
-) 校内外を問わず気持ちの良い挨拶を心がけるようにする。
-) 人の気持ちになってマナー全般を守れる態度を養う。

学力の向上

-) 「わかる授業」の実践。生徒に興味監視を持たせ、自ら取り組む姿勢の向上を図る。
-) 家庭学習を充実させ、学習への意識向上を図る。
-) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るため、各教科で工夫を行い、さらに昨年度同様、基礎学力補習 (国語・数学・英語) を実施し、基礎学力の向上を図る。

特別活動の充実

-) 生徒会活動において、様々な学校行事を通じ望ましい心身の健康を目指し、規律ある集団行動、責任感・連帯感の定着を図る。また、社会の構成員として勤労の尊さや生産する喜びの体得、社会奉仕の精神を養う。
-) 運動部及び文化部の充実、発展。(特に強化部は全国大会出場を目指す。)

特別進学コースの生徒の学力向上・進学実績向上

-) 0 限 (1 限前) 課題の作成・添削。
-) 補習の実施。(夏季、冬季、春季休暇中・8 限・第 1,3 土曜日)
-) 対外模試の実施。
-) 生徒対象・保護者対象進学講演会の実施。
-) 春季・夏季合同学習合宿。

海外語学研修をオーストラリア（ブリスベン）で実施予定。

(2) 広報・生徒募集活動

受験者数、入学者数ともに増やす生徒募集

-) 入試制度の見直しとして、受験のしやすさ、募集活動の早期化、専願生を増やす工夫の観点から見直しを検討する。
-) 昨年度の生徒募集についての分析について、本校に入学しなかった受験合格生について原因を探り、その解消に努力する。
-) 公立高校無償化対策として、私立高校生への就学支援金についての説明とアピール。
-) 県南地区とその周辺地区への広報活動の強化として、普通科特別進学コースや部活動の実績の積極的アピールを行なう。地区ごとに効果的な情報の提供をするよう心がける。
-) 募集対象のターゲットとなる中学生を明確にし、地元の県立高校志望の生徒をいかに取り込むか検討し、実行する。

特別進学コース対策

-) 特別進学コース用学内通信「ダイヤモンド」の発行。
-) 進学塾に訪問しコース説明を実施。また、進学塾対象の説明会を実施。
-) 中学校保護者対象学校説明会。
-) 中学生対象サマーセミナー。

(3) 進学・就職活動

計画的に進路模試を実施し、入学・入社試験に合格させるための学力の育成を図るとともに、学年団と協力して社会人としての資質の向上に向けての指導を行なう。

附属高校の利点を活かし、日本文理大学や系列校に向けた優秀な人材の確保に努める。各種進路情報を収集し、的確に与えることで、生徒の進学、就職意欲の高揚につなげる。

(4) その他

学生寮について

-) 平成 21 年度に引続き寮運営の独立採算方式を継承する。
-) 改善すべきところは改善し、寮生の満足度を更に向上させる。
-) 寮生数の増加に向けた取り組み（遠隔地における生徒募集）の実施。

3 . 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

診療放射線学科

-) 個別指導
 - (a) 提出を義務付けている「学習報告書」を担当教員が内容精査し、個別指導に活用する。

- (b) 3年生全員に、授業開始前の朝テストを実施し学力の向上を図る。
- (c) 定期的実施する模擬試験の成績不良者に対し、遅くまでの居残り学習を徹底する。
- (d) 総合的に基礎学力を向上させるため、不得意科目の克服を目的に、授業時間外の学生指導を徹底する。
 -) 国家試験合格率90%以上を目標に、以下の支援体制を強化する。
- (a) 夏期休暇に3年生を対象とした国家試験対策講座を開講する。
- (b) 国家試験対策のための勉強合宿を8月に実施する。
- (c) 2年生には、授業時間以外に国家試験対策講座を設け、学力向上に努める。
- (d) 3年生には、国家試験対策として年7回の模擬試験を実施し、不得意科目の克服に向けた指導を徹底する。
- (e) 国家試験不合格者に対する支援策として、聴講生制度を利用させ学力向上を図り国家試験合格のための指導を徹底する。
 -) 関連資格の取得
- (a) 診療放射線技師資格とは別に、放射線取扱主任者第1種及び第2種の資格取得を目指し、放課後及び夏期休業中に特別講座を開講し勉強の習慣づけを徹底する。

臨床検査学科

-) 個別指導
- (a) 提出を義務付けている「学習報告書」を担当教員が内容精査し、個別指導に活用する。
- (b) 模擬試験で成績不振の2年生は、居残りの個別指導を行う。
- (c) 不得意科目を失くすため、希望者には放課後に学習指導を徹底強化する。
-) 国家試験合格率90%以上を目標に学生への支援体制を強化する。
- (a) 3年生は国家試験レベルの模擬試験を年7回実施し、理解度の低い科目への対応を徹底指導する。
- (b) 国家試験対策のための勉強合宿を8月に実施する。
- (c) 時間割の空き時間を利用して国家試験対策講座を実施し授業の補足を行う。
- (d) 国家試験不合格者に対する支援策として、聴講生制度を利用させ学力向上を図り国家試験合格のための指導を徹底する。
-) 関連資格の取得
- (a) 2年生以上の学生は、臨床工学科で実施している第2種ME技術実力検定試験に挑戦させ資格取得を目指し、放課後及び夏期休業中に特別講座を開講する。

臨床工学科

-) 個別指導
- (a) 提出を義務付けている「学習報告書」を担当教員が内容精査し、個別指導に活用する。
- (b) 模擬試験の成績が6割未満の学生は強制的に居残り学習をさせ、教員が不得意科目の克服を目的として、授業時間外も学生の対応にあたる。
- (c) 成績不振者に対して、個人面談及び保護者面談を実施する。
-) 国家試験合格率100%（4年連続）を目標に学生への支援体制を強化する。
- (a) 3年生は国家試験レベルの模擬試験を8回実施する。

- (b) 国家試験対策のための勉強合宿を8月に実施する。
- (c) 授業時間外にも国家試験対策講座を2年生以上に実施する。
-) 関連資格の取得
 - (a) 2年生以上の学生全員に、第2種ME技術実力検定試験を受験させるため、夏期休業中に特別講座を開講する。
-) その他
 - (a) 授業では学べない知識を習得することを目的に、大分大学医学部附属病院および医療機器メーカーの施設見学を実施する。
 - (b) シラバスに沿った授業の進捗状況を学期毎にチェックし、科目間の格差を是正する。
 - (c) 講義技術の向上のため、教員間による公開授業と学生による授業評価アンケートを実施する。
 - (d) 教員の資質向上のため、研修会を実施する。

(2) 学生生活

-) 全校集会を毎月、SHRを毎日実施し、学生指導および伝達事項の徹底を図る。
-) フレッシュマンセミナーやスポーツ大会等の学校行事を通じて、新入生と教員・在校生の相互交流を深める。
-) 精神的な悩み・不安を持つ学生に対し、クラス担任が窓口になるが全教職員が対応に当たると共に、日常的に学生の動向に注意を払う。
-) 学生には、担任による個別面談を随時実施し、日常生活の様子を確認するとともに、学業及び学校生活に悩みを抱えた学生への対応を強化する。また、問題のある学生には保護者と連携し三者面談を実施する。
-) 健康増進セミナーを開催し、「精神面を含めた、健康の維持管理」をテーマに外部講師による講演を実施する。

(3) 広報・学生募集活動

-) 中長期改善計画2年目の目標達成に必要な目標として、今年度実施する入試で250人以上の出願者を確保する。
-) 体験型オープンキャンパスを5月・7月・8月に実施する。
-) 学校見学説明会を、毎週土曜日に実施する。
-) 広報担当教員を昨年度の4名にさらに2名増員し、広範囲できめの細かい広報活動を展開する。
-) 学外で実施されるガイダンスには2名体制で臨み、参加者に本校の特徴を積極的にアピールし、オープンキャンパス及び学校見学説明会への参加勧奨を行うとともに、出願につながる活動を行う。
-) 本校のホームページを随時リニューアルする。
-) 広報の研修会を年2回実施する。(6月、8月)

(4) 就職活動

) 就職支援活動と社会人・医療技術者としての資質向上を目的とした、進路セミナーを学科・学年ごとに4回実施する。

(5) その他

-) 学生充足率100%、収支の黒字化を、学科別及び学校全体で早期に目標達成するため、2年目に掲げた計画を達成できるよう教職員全員が目的意識を持って努力する。
-) 3学科の横断的業務に対しては、分掌組織の業務推進により教員相互の意思疎通を図る。
-) 結果の出せる組織作りと、適材適所に人材を配置し、10先を見据えた人材の育成を図る。
-) 学校運営企画部を創設し、学校存続に向けた戦略的目標を協議する。
-) 従来の入試係、広報係を統合した入試広報部を創設し、入学試験全般の運営と厳しくなる学生募集に総力をあげて取り組む。
-) 学生数増加を想定し、学生の出身地における学外臨床実習病院の不足を補うため、候補となる実習先を早期に選定し、計画的に実習病院の確保を図る。
-) 退学者を撲滅させる対策を全校挙げて取り組む。

4 . NBU大分美容専門学校

(1) 教育活動

美のプロフェッショナルとしての未来を拓く人間力の育成を図り、学生が伸び伸び・生き生きと学べる環境の中で、「夢見る力」「挑戦する力」「考える力」「表現する力」「感謝する力」について授業を通じて教育していく。

教員全員が連携を取りながら質の高い教育を実践するために、授業研究を進める。

生徒自らの参画で「夢発見・夢挑戦・夢実現」の能力を養う学校行事を提供する。

生徒一人ひとりに合せた指導を行い、苦手・不得手科目を克服させる。

各種コンテストに積極的に参加し、上位入賞目指して真摯に取り組む環境を作る。

国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、100%合格を目指す。

(2) 学生生活

マナーブック「NBU PRIDE」を積極的に活用して、生徒の挨拶、服装、清掃やその他マナーに関する生活指導の徹底・継続を図る。

教職員間の連携を密にして、各職員が生徒に対して同じ指導が出来るよう取り組む。

(3) 広報活動

生徒募集数を70名に設定し、確保に向けて最大限努力する。

を実現するためオープンキャンパス参加数600人を目標に頑張る。

ビューティショーを生徒主導で盛り上がりの大きなイベントにし、本校の宣伝をする。

特別講座開設で、「NBU には何かあるぞ！」とのワクワク期待感を高校生に抱かせる。
サロンや異業種との連携を強め、本校の存在感を高める。

(4) 就職活動・キャリア支援

有名サロンから講師を招き、生徒により多くの体験をさせる機会をつくる。
各種認定試験で高いグレードの合格者を多く生み出す対策講座を設ける。

(5) その他

月曜日に運営委員会を開催し、1 週間のスケジュールの確認を行う。
職員会議には必ず翌月の行事の詳細を提出し、行事がスムーズに行われるよう早めに準備する。
学科・学年・分掌の報告・連絡・相談（報・連・相）を徹底する。